

検査センターとして地域医療に貢献できること

PHR(Personal Health Record)の活用

名古屋医師協同組合
名古屋臨床検査センター

理事長 北川 裕章

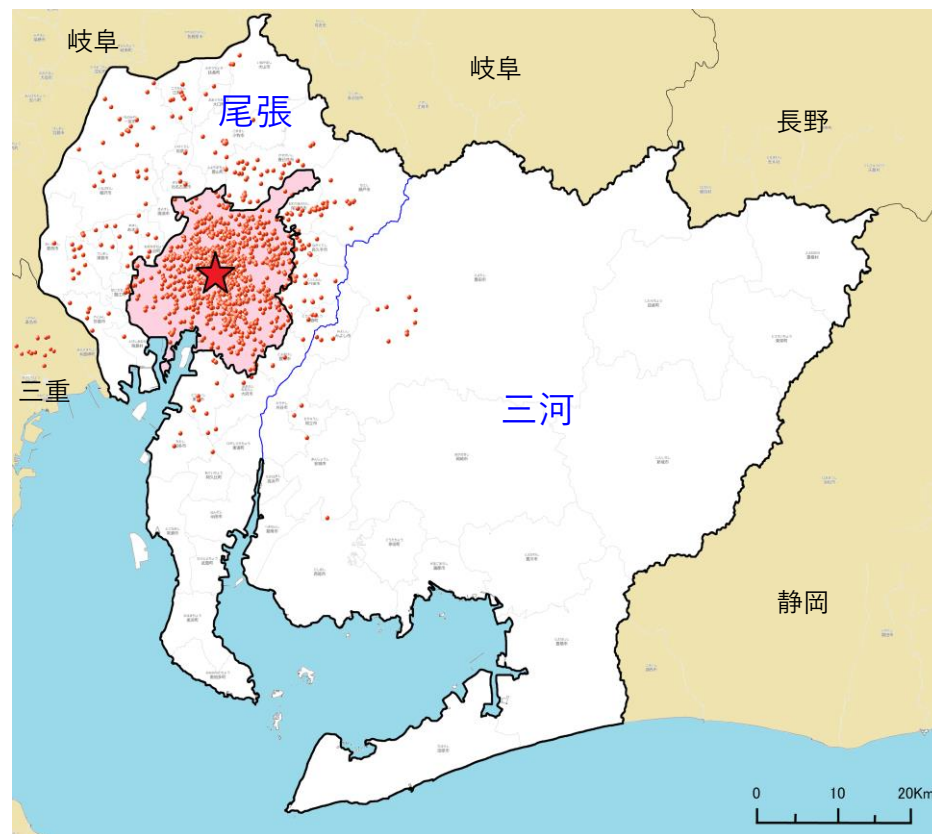
・施設の概要

- ・昭和33年、名古屋市内の開業医師の有志により、地域医療の水準の向上を目的に設立

・業務内容

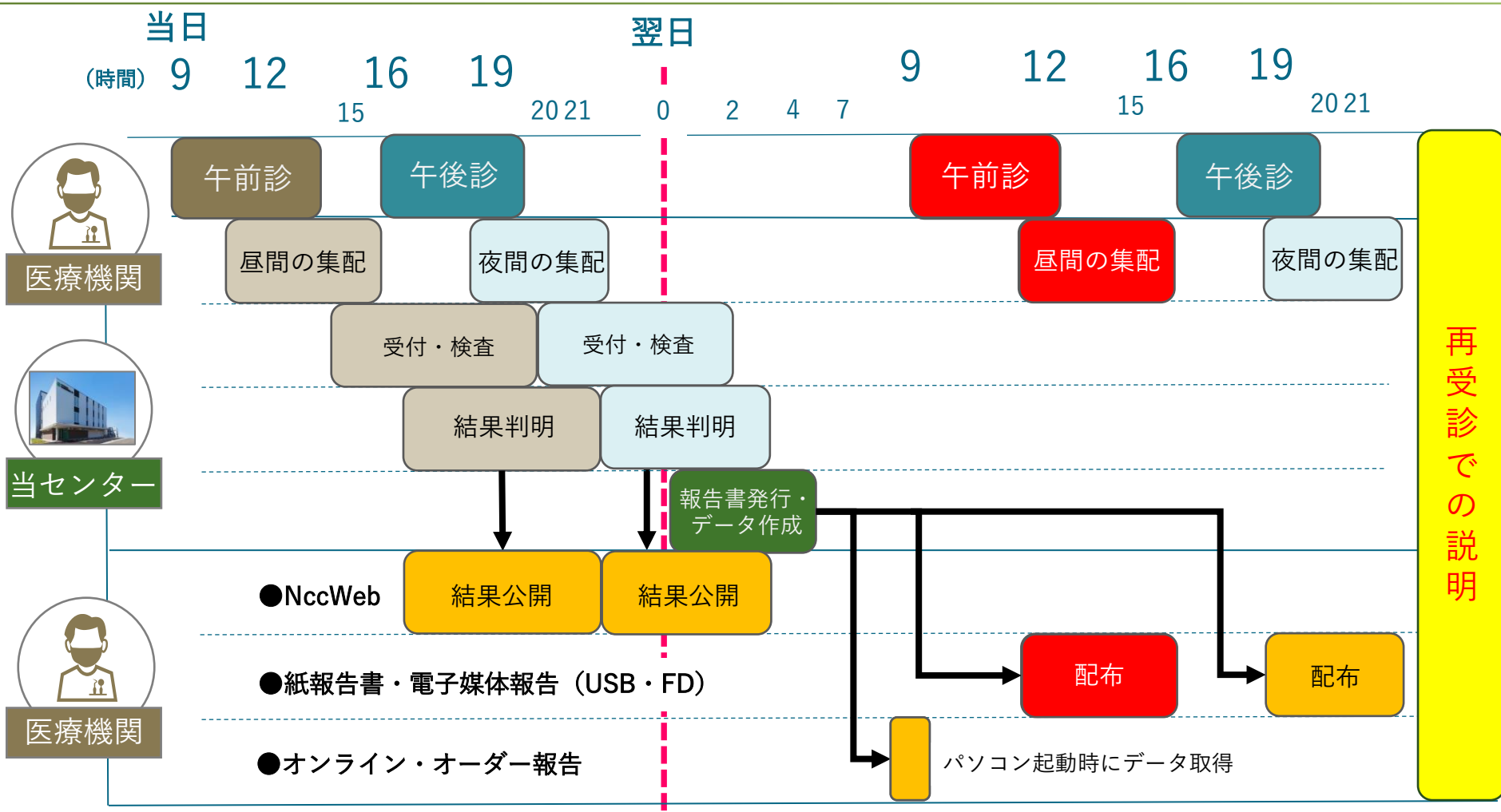
- ・検査センター
血液など検体検査
- ・附属診療所
依頼生体検査（MRI・CT・その他）
健康診断・各種検診・人間ドック

・対象地域と組合員分布



愛知県地図

「検体集荷」から「検査結果の配布」・「説明」までの流れ



30～60日後の再受診での説明になりがち

PHR (Personal Health Record)とは

患者本人が生涯にわたって保持する 電子カルテ (生涯型電子カルテ)

- ・ 患者個人の健康に関する医療情報・データを記録し、一元的に管理。自らが健康・医療・介護の情報を管理することで、日常生活の改善などのセルフケアを実現し、健康寿命の延伸を目指すもの

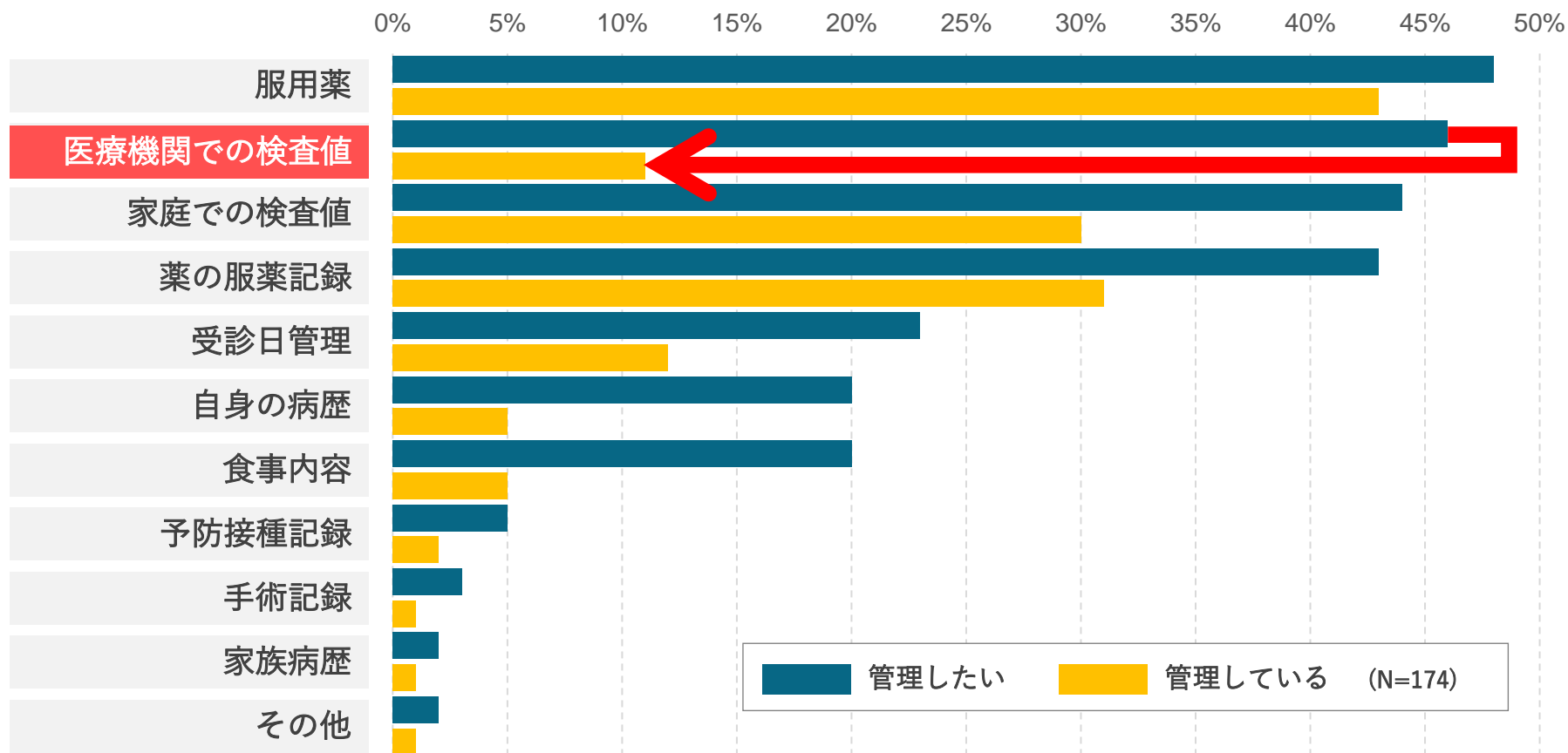
医療や健康領域における情報通信技術 (ICT)の導入が進む今、

『PHR』への注目が高まっている

- ・ 既往歴
- ・ アレルギー歴
- ・ 妊娠・出産に関する情報
- ・ 医療機関の診察・検査の結果
- ・ 定期健康診断の結果
- ・ 処方箋内容
- ・ 自宅で測定した体温・血圧・脈拍などのデータ

など

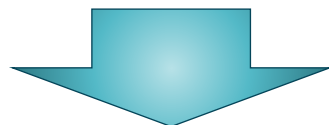
PHRで管理したい情報と管理している情報



2022年1月13日、第1回生活習慣病領域における治療アプリやPHRに関するシンポジウム ～デジタルヘルスとPHR～ 東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻 医療情報学分野 脇嘉代

管理したい情報の中で検査結果が最大のギャップになっている

検査結果の判明と同時に、本人に送信する
迅速、確実、かつ安全に



メディカルデータカード株式会社

MeDaCa (患者ソフト)



WEBブラウザ



アプリ

MeDaCa PRO (医療機関ソフト)



WEBブラウザ

患者



MeDaCa®

本人同意の下に、
医療現場で役立つ

医療機関

MeDaCa
PRO®






患者データに基づいた
医療サービス

各種データ送信 (タイムリーな検査結果など)


各種患者データ閲覧許可

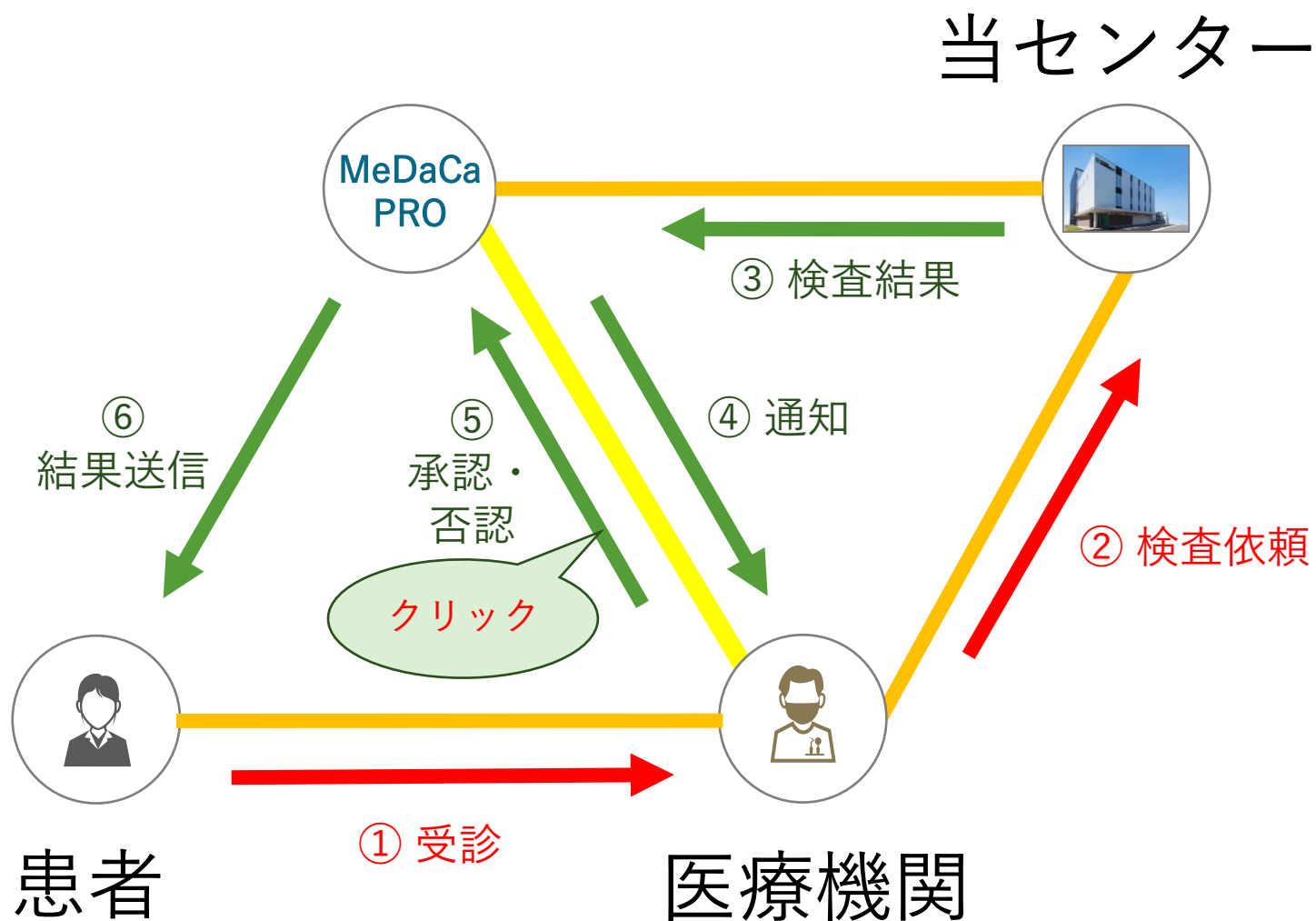
信頼性とセキュリティ

◎信頼性

	<p>文部科学省・JST COI-STREAMの研究成果から事業化</p> <p>文部科学省・JSTの革新的イノベーション創出プログラム（COI-STREAM）における慶應義塾大学トリアル拠点「健康長寿の世界標準を創出するシステム医学・医療拠点」の研究成果を事業化しました。</p>
	<p>科学技術振興機構（JST）より二度の資金調達を実施</p> <p>2017年7月と2018年4月に、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）・出資型新事業創出支援プログラム（SUCCESS）より資金調達を行いました。</p>
	<p>JST未来社会創造事業の研究開発を受託（平成29年度～30年度）</p> <p>慶應義塾大学と共に応募し採択され、分担研究機関として研究開発を受託しました</p>

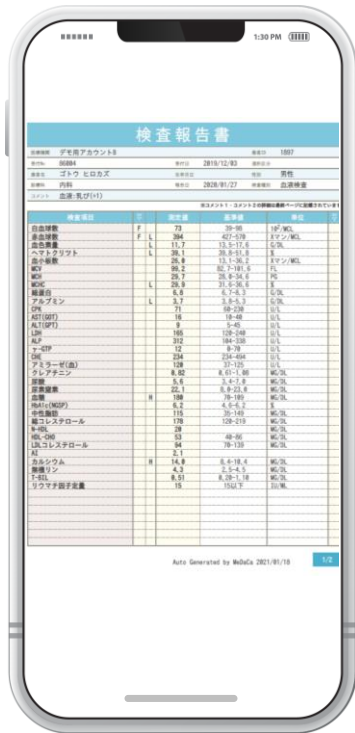
◎セキュリティ

<p>セキュリティ</p> 	<p>MeDaCaは、Amazon Web Services（以下「AWS」）をインフラとして採用し、AWSのベストプラクティスに従ってセキュリティ対策を行っております。また、日本において医療情報システムの構築・運用を行う上で遵守すべきガイドラインとして、厚生労働省、総務省、経済産業省の3省が定めた2つのガイドライン、3省2ガイドラインを参照して運用を行っております。</p>
--	---

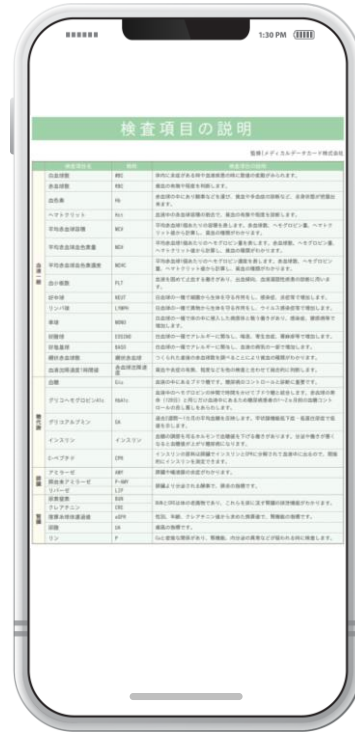


機能 1 (検査結果・検査項目の説明・グラフ表示)

検査結果



検査項目の説明



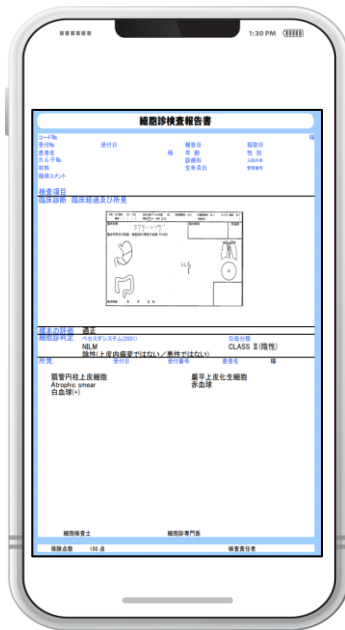
グラフ表示



血液検査



病理検査



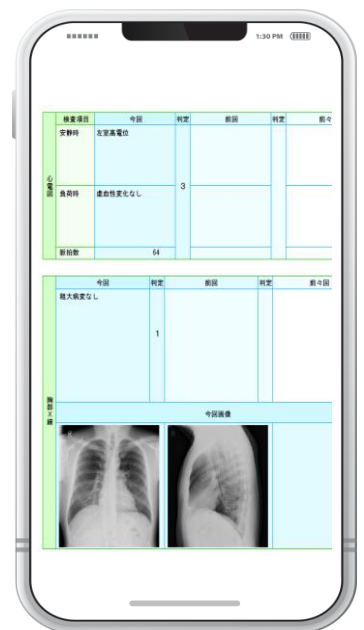
画像検査



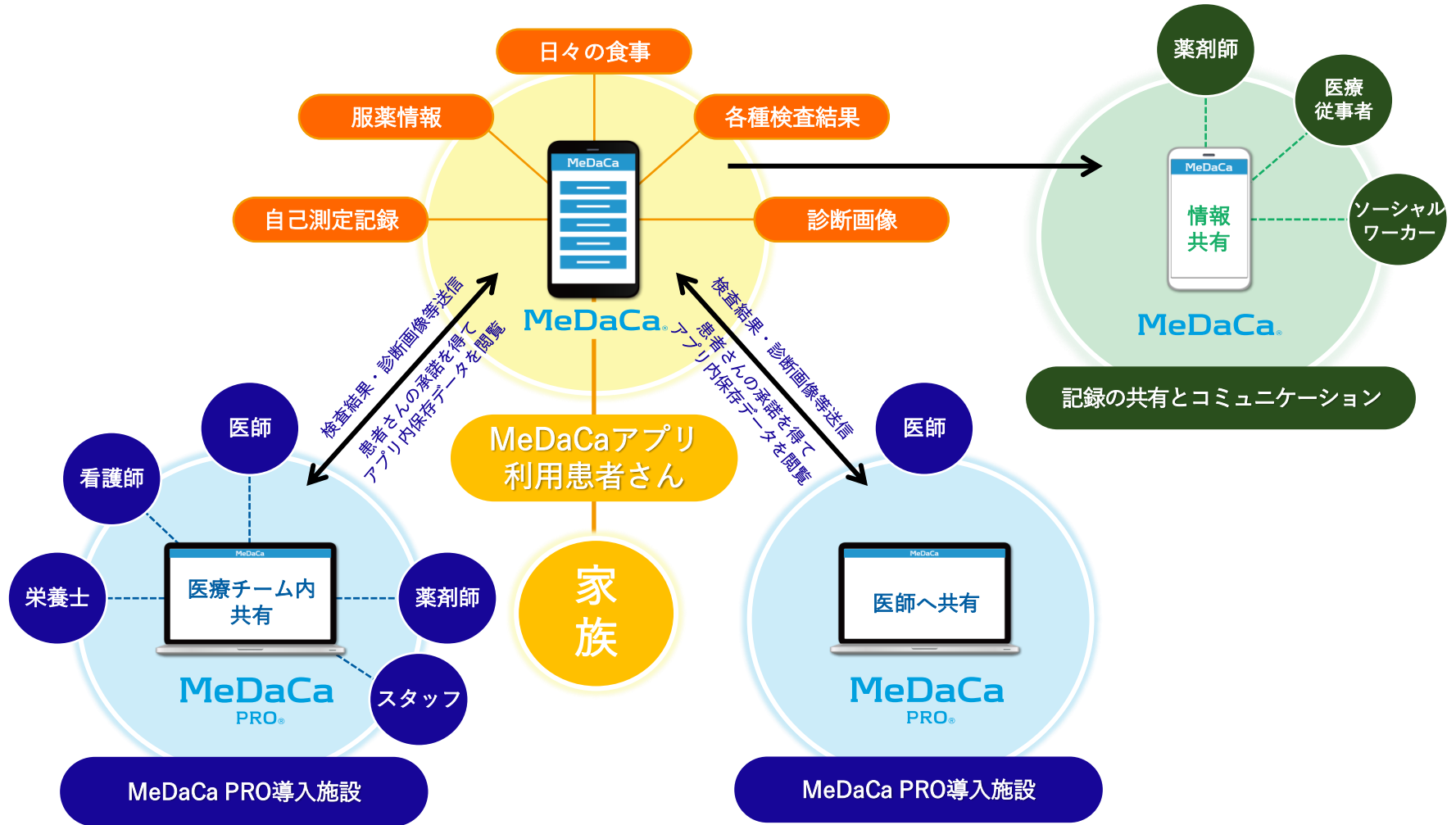
特定健診



健康診断結果

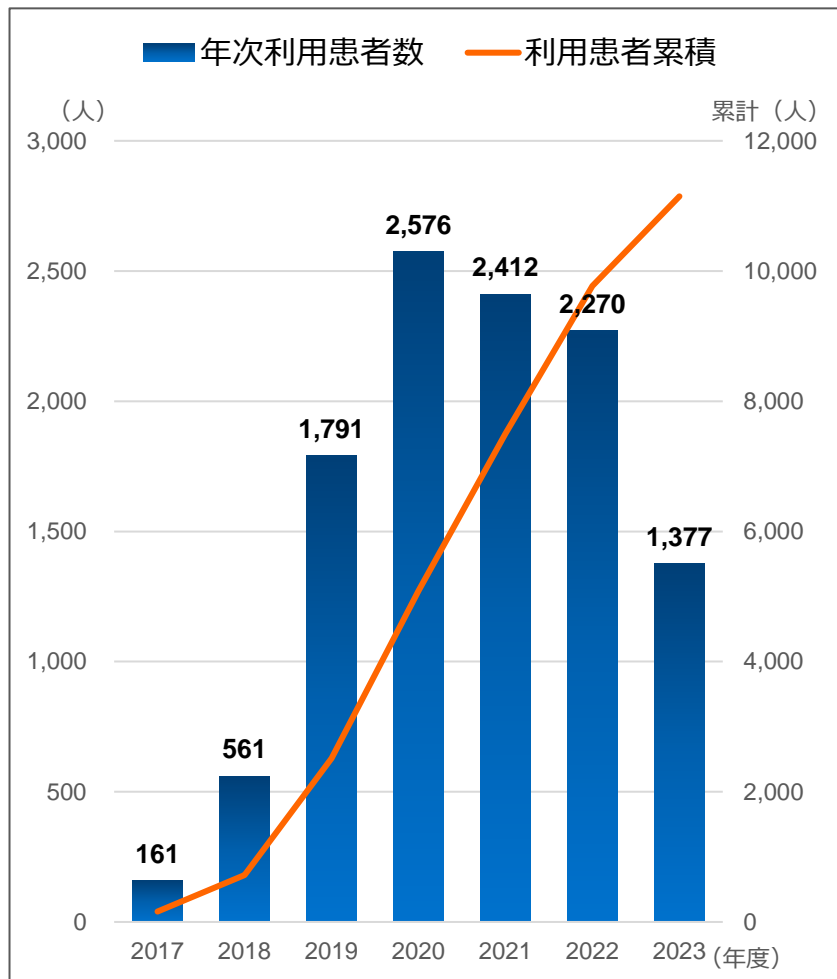


機能 3



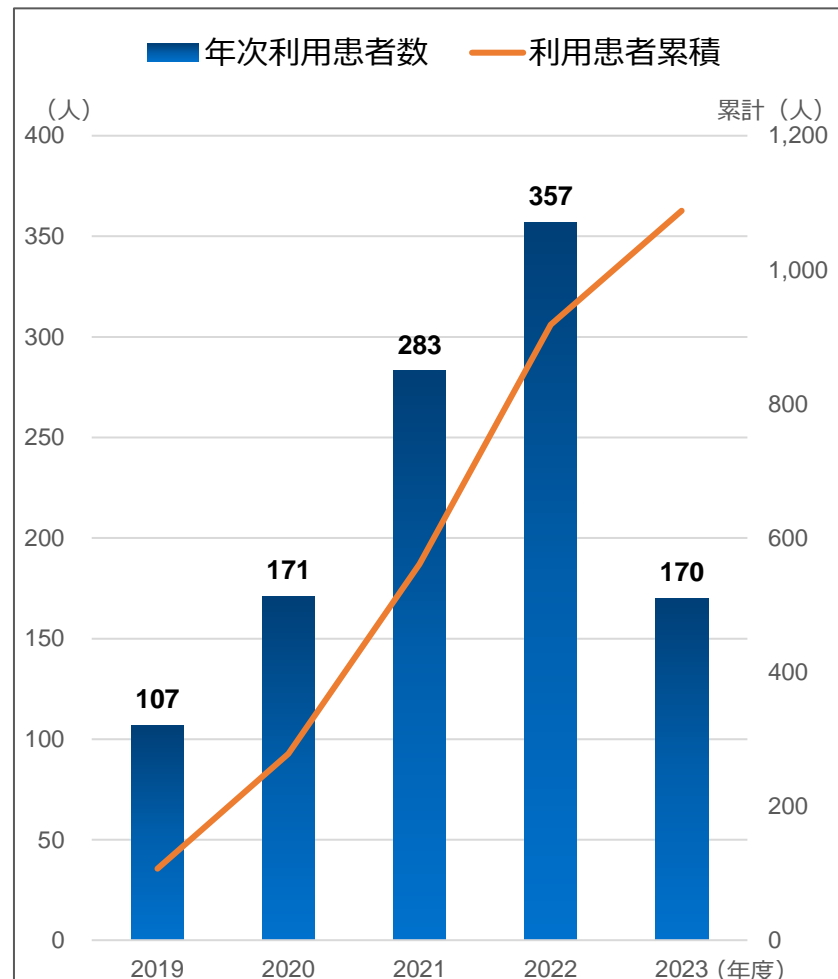
名古屋臨床検査センターにおけるPHR利用状況

全体の利用患者数推移



2023年7月末現在

附属診療所における利用者



2023年7月末現在

PHRアプリ利用状況と検体検査の関係

男女別

男性



女性

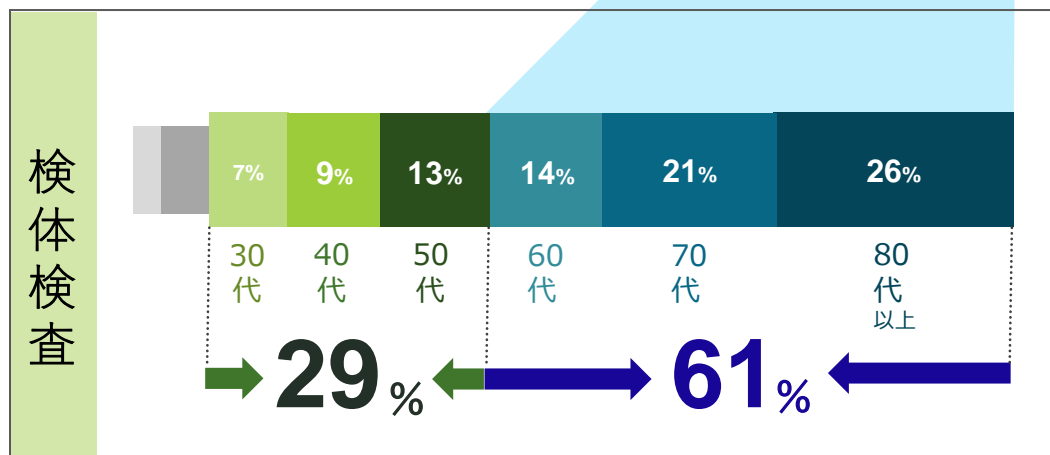
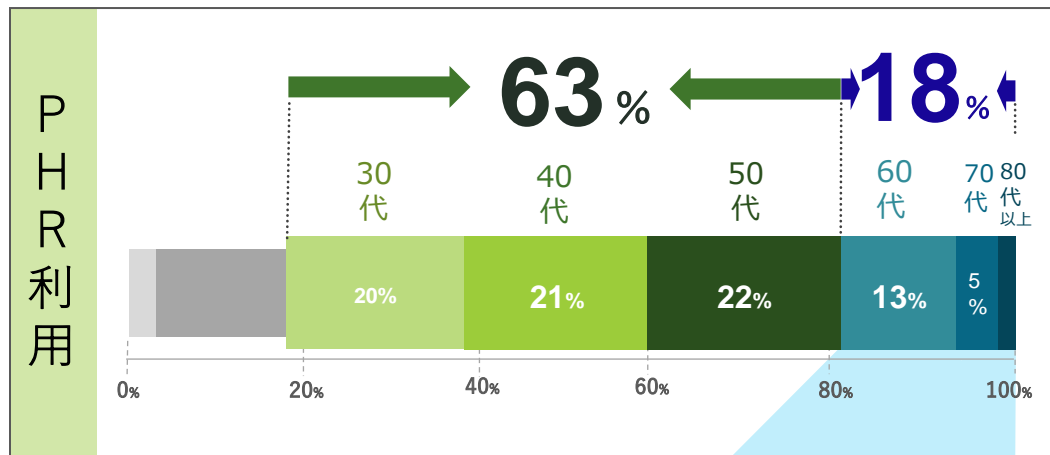


4,957
(46%)

5,793
(54%)

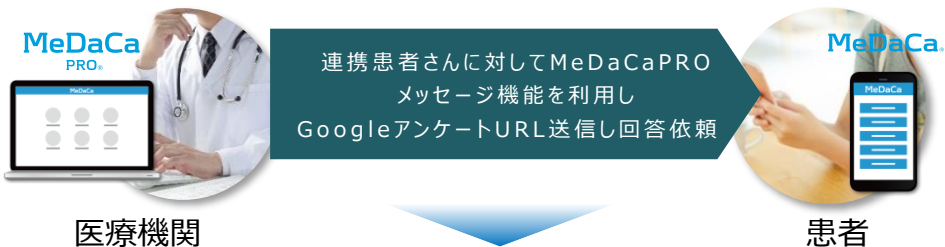


年代別



アンケート結果 1

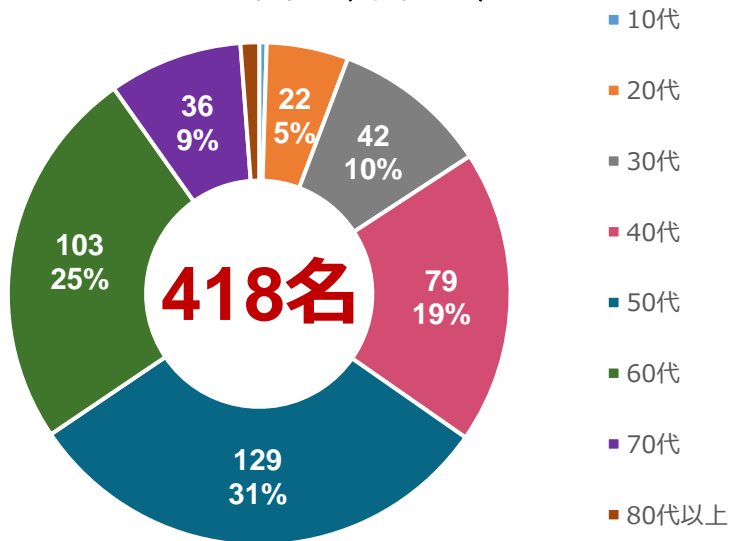
アンケート実施要項



はい、いいえ 4段階評価にて回答

いいえ ← 1 2 3 4 → はい

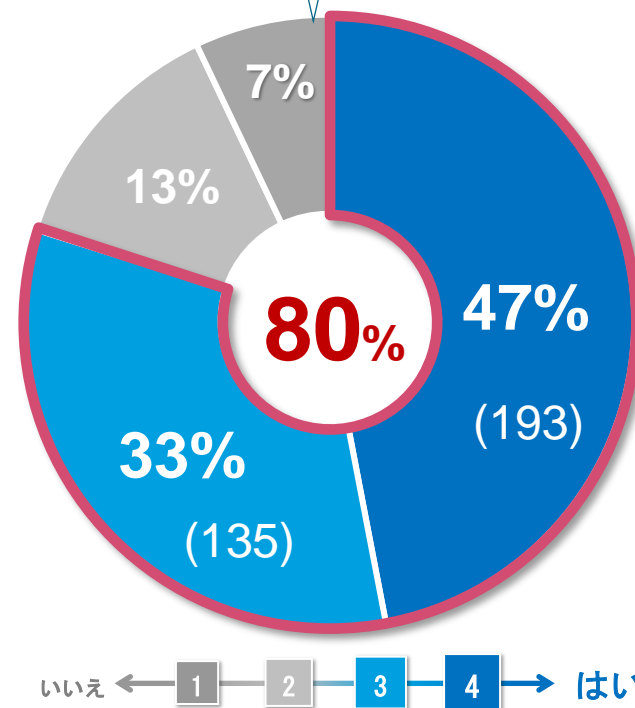
アンケート回答(年代別)



Question . 1



検査結果がお手元のスマートフォンに早く届く
事でより先生が身近に感じるようになった

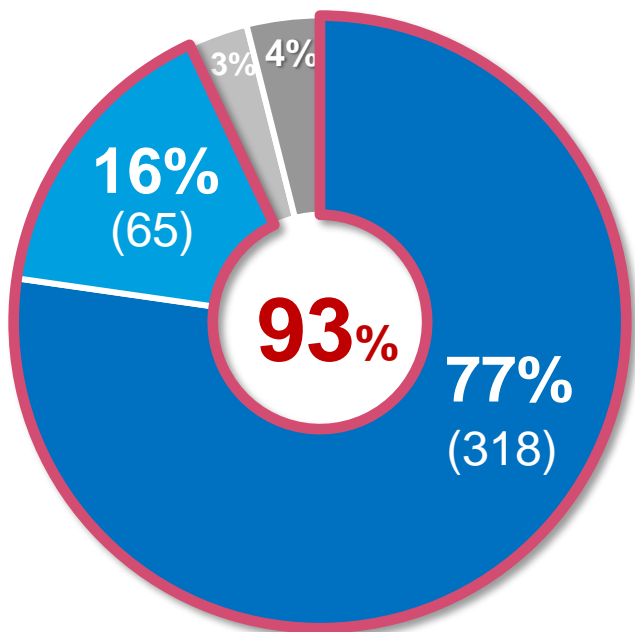


アンケート結果 2

Question . 2



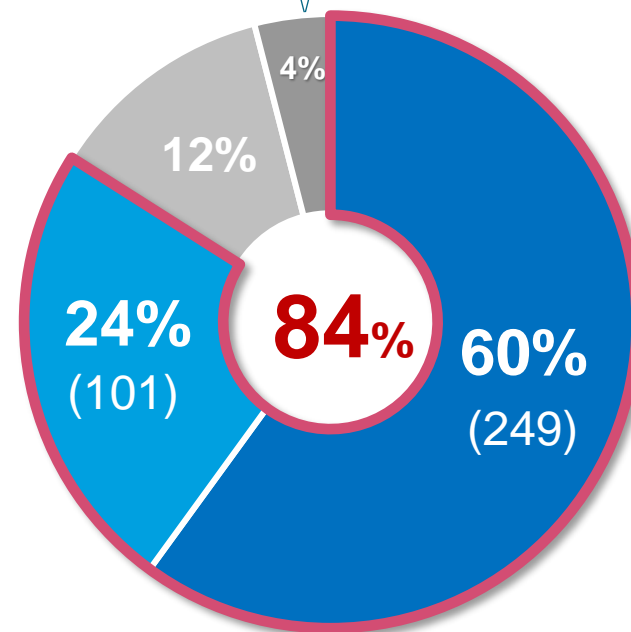
検査結果を紙より
デジタルでもらった方が便利である



Question . 3



早く検査結果が届くことで
検査結果への関心が高まった

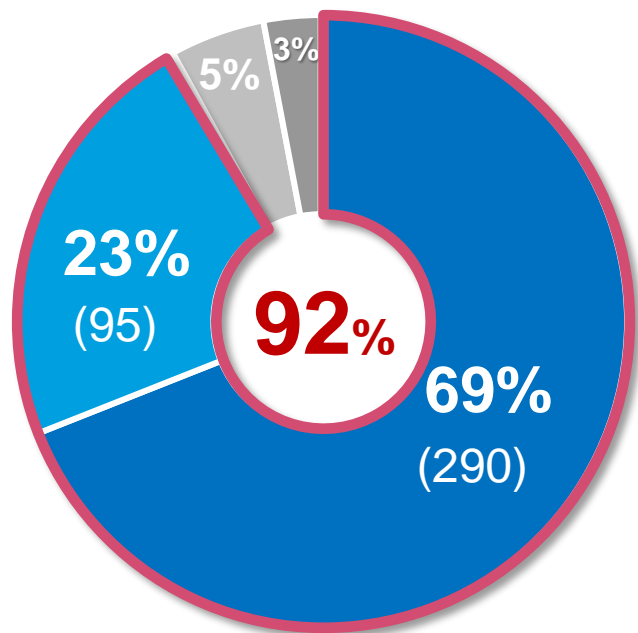


アンケート結果 3

Question . 4



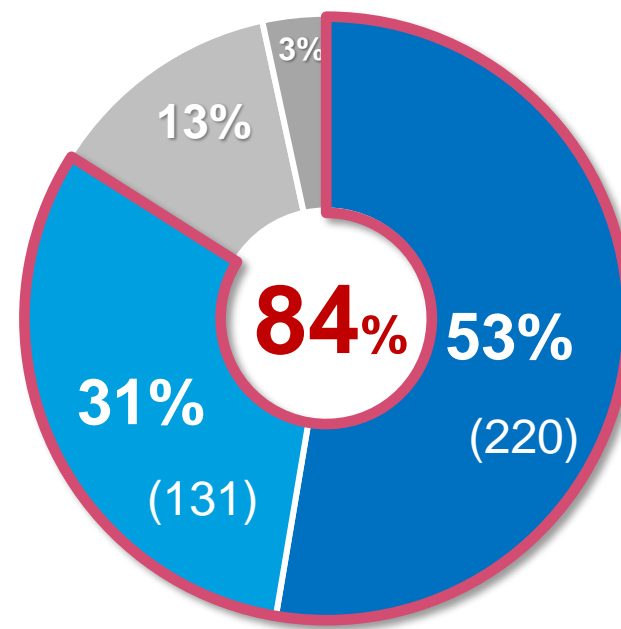
治療に前向きになった



Question . 5



アプリで検査結果を見る操作は簡単である



いいえ ← 1 — 2 — 3 — 4 → はい

課題 1 スマホの利活用状況(スマホ所有者限定)

	60代 前半	60代 後半	70代 前半	70代 後半
電話をかけることができる	98	99	99	100
メールやメッセージを送ることができる	97	93	88	87
カメラを使って写真や動画を撮影する事が出来る	93	94	83	87
電話帳の設定ができる	88	83	74	73
インターネットを使って情報を検索できる	92	84	73	57
アプリのダウンロードや削除ができる	72	61	43	39
Wi-Fiに接続することができる	68	56	40	34
メールやメッセージを受信拒否設定ができる	61	42	30	29
位置情報のON/OFF設定ができる	56	42	25	28
写真を編集・加工することができる	48	26	17	16

出所:2022年一般向けモバイル動向調査(訪問留意)

シニア層へのスマホ所有率は上がってきているが、
利活用が出来ていないのが現状

◎再受診患者の減少



検査結果が手に入ることで、「聞きに来る受診」が減少するのでは

- ・ 検査結果の異常値を見て受診
- ・ 慢性疾患の定期的な検査の場合は、元々、30日あるいは60日後に説明していた

◎誤解の発生

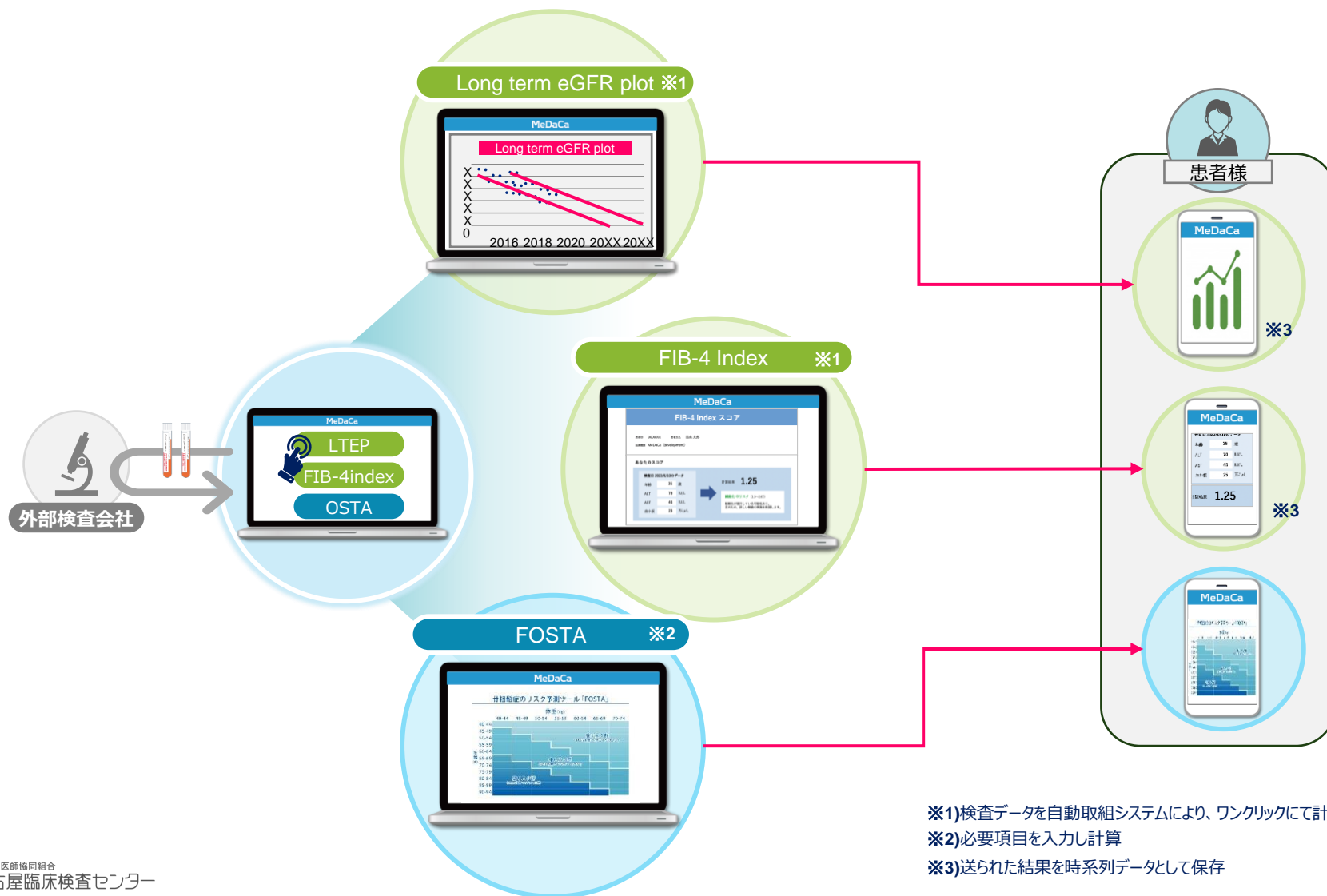


会話形式での説明がないため、誤解の可能性がある

- ・ 送信時に、個別のメッセージを添えることが可能
- ・ 理解できるケースのみ送信
- ・ 送信する判断は主治医

今後の展望 ～2023年度 MeDaCaサービス

検査値をデータ化し各種疾患リスク予測を自動計算サービスを今秋スタート予定



まとめ

- ◎ 検査結果をリアルタイムに本人に発信することが地域医療に貢献する事と考え、PHRの活用をはじめた
- ◎ 患者にとって有意義であり、医療機関からもおおむね好評
- ◎ 操作は、医療機関、患者とも煩雑ではなく、問題は多くはない
- ◎ 高齢者のスマートフォン、アプリの利用率は高くはなく、操作困難なケースも散見
- ◎ 利用医療機関数、患者数は多くはないが、今後の展開は明るい
- ◎ ICTの導入、各社の競争は激化しており、さらなるサービスの向上が期待
- ◎ ICTの導入は避けては通れず、模索しながら積極的に進めていく方針

ご清聴ありがとうございました。

「何も知らないものは何も疑わない」

ジョージ・ハーバート（イングランドの詩人）